

平成 2 3 年 保育士 試験 問題


発達心理学 (再 試 験)

(選択式 10 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名・会場名・教室名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB～B) で、濃くはっきりとマークすること。

(良い例) …  (濃くマークすること。はみだしは厳禁)

(悪い例) …     

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の【I群】は、発達の研究に関する記述である。【I群】の記述と【II群】の人物名を結びつけた場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A 視覚的断崖の実験装置を開発し、乳児の奥行き知覚能力を明らかにした。
- B 人間とサルとの共通点に着目し、愛情の発達に関する代理母を用いた実験的研究を行った。
- C 発達には2つの水準があるとし、教育と発達との関連について発達の最近接領域という概念を提唱し論じた。
- D 視覚的選好を指標として、乳児は単純なパターンより複雑なパターンを、複雑なものでも人の顔をより好むことを実験的に明らかにした。

【II群】

- ア ハーロー (Harlow, H.F.)
- イ ギブソン (Gibson, E.J.)
- ウ ヴィゴツキー (Vygotsky, L.S.)
- エ ファンツ (Fantz, R.L.)

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | エ | ウ |
| 2 | イ | ア | ウ | エ |
| 3 | イ | エ | ウ | ア |
| 4 | ウ | ア | イ | エ |
| 5 | エ | イ | ア | ウ |

問2 次のA～Cを意味する学習に関する用語を、それぞれの【語群】ア～ウから選んだ場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

A 他者の行動とその結果を観察するだけで成立する学習。

【語群】 ア モデリング イ 条件づけ ウ 運動学習

B ある学習をしたことがその後の別の学習に影響すること。

【語群】 ア 学習曲線 イ 学習の転移 ウ 熟達化

C 課題状況を新たな見方によって再編成することにより、問題解決のための見通しを得る働き。

【語群】 ア 試行錯誤 イ 社会的スキル ウ 洞察

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | ア | ア |
| 2 | ア | イ | ウ |
| 3 | イ | ア | ウ |
| 4 | イ | イ | イ |
| 5 | ウ | ウ | ウ |

問3 次の文は、胎児期の特徴に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 妊娠中の長く重い精神的ストレスは、胎児の発育に好ましくない影響を少なからず与える。
- B 胎児期には学習能力があると考えられ、出生直後には人の声と物の音とでは異なった反応を示す。
- C 胎児が活発に運動し、母体が胎動として自覚できるようになると、親としての意識が一段と強まる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × |
| 3 | ○ | × | ○ |
| 4 | × | × | ○ |
| 5 | × | × | × |

問4 次の文は、子どもの言語の発達に関する記述である。(A) ~ (E) にはあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

話しことばの源である発声は、生後1か月頃から現れる(A)にみられる。子音と母音から構成される(B)を発するのは、生後7か月頃である。(C)の出現は、およそ生後10か月から13か月の範囲にわたる。その後、1歳半頃まで(D)の時期が続く。文法構造をもつ(E)は、それ以降に用いられるようになる。

【語群】

ア 一次のことば	イ 二語文	ウ 基準(規準)喃語
エ 育児語	オ 一語文(一語発話)	カ 二次のことば
キ 初語(始語)	ク クーイング	

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	ウ	エ	キ	オ	イ
2	ウ	ク	キ	ア	カ
3	エ	ク	ウ	ア	カ
4	ク	ウ	キ	オ	イ
5	ク	キ	ウ	ア	カ

問5 次の文は、乳児のコミュニケーションについての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 生後2・3か月頃になると、人に向けられて発せられる社会的微笑が生じるようになる。
- B 大人が舌を出したり、口を開けたりして見せると、乳児もこれと同じような顔の動きをすることが観察される。
- C 乳児は人に積極的に働きかける傾向を生得的に有しており、応答的環境が欠けた場合にも、乳児自身のコミュニケーション発達のプロセスに影響は生じない。
- D 「泣き」という情動の表出は、養育者の不快感を強めるため、常に養育者と子どもとの結びつきを妨げる方向に働く。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問6 次の記述は、「保育所保育指針」第2章「子どもの発達」の2「発達過程」の一部である。【I群】の発達過程の区分と【II群】の記述を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A おおむね6か月から1歳3か月未満
- B おおむね1歳3か月から2歳未満
- C おおむね2歳
- D おおむね3歳
- E おおむね4歳

【II群】

- ア 大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。
- イ 玩具等を実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物との関わりが強まる。
- ウ あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。
- エ 自分の行動やその結果を予測して不安になるなどの葛藤も経験する。
- オ 予想や意図、期待を持って行動できるようになる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D | E |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| 2 | ア | ウ | イ | エ | オ |
| 3 | イ | ア | エ | ウ | オ |
| 4 | ウ | ア | オ | イ | エ |
| 5 | ウ | イ | ア | オ | エ |

問7 次の文は、学童期に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 学童期に能力の個人差が目立つようになるのは、生物学的要因に加えて、経験や熟達の機会が関与している。
- B 学童期の前期において、大多数の子どもは形式的な論理思考ができるようになる。
- C 学童期の中期には、生活の中で仲間関係の比重が大きくなり、仲間意識が強まり行動を共にするようになる。
- D 学童期の後期には、第二性徴が現われ、身体の発達とともに心理的にも大きな変化が生じる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問8 次の文は、高齢者の発達的特徴に関する記述である。(A) ~ (D) にはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

老年期における心理社会的危機をエリクソン (Erikson, E.H) は、(A) とした。この時期、知的能力は総体的に低下するが、言語理解や経験的評価などが含まれる (B) は、維持または緩やかに上昇する。また、それほど親しくない人々とのつながりが減少することに伴って (C) は縮小するが、通常、特定の親しい他者とのつながりは変わることなく維持される。さらにバード (Bird, C.) は、(D) というものさしを用いず、現在の自分の姿を直視して、積極的に老いの意味を位置づけるエイジレス人間 (歳をとらない人) という見方を提唱している。

【語群】

ア 発達年齢	イ 統合対絶望	ウ 情報ネットワーク	エ 結晶性知能
オ 流動性知能	カ 世代性対停滞	キ 暦年齢	
ク ソーシャルネットワーク			

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | イ | エ | ク | キ |
| 2 | イ | オ | ウ | ア |
| 3 | カ | エ | ク | ア |
| 4 | カ | オ | ウ | キ |
| 5 | カ | オ | ク | キ |

問9 次の文は、子どもの発達に関する研究法についての記述である。正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 横断的研究は、多数の協力児・者の資料を収集でき、効率よく発達の概観を知ることができる。
- B コホート（コーホート）研究（分析）は、発達における時代的影響を明らかにすることができる。
- C 縦断的研究は、協力児・者が比較的小規模のため、その結論を一般化するには限界がある。
- D 横断的研究は、各年齢層の協力児・者は異なるため、発達過程における個人差を明らかにすることはできない。
- E 縦断的研究は、同一の協力児・者を長期にわたって追跡的に調査・測定をくり返すことによって、発達過程を知ることができる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	○	○
2	○	×	×	○	×
3	×	○	○	×	○
4	×	×	○	×	×
5	×	×	×	○	×

問 10 次の文は、青年期の発達の特徴に関する記述である。(A) ~ (D) にはあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

ピアジェ (Piaget, J) によれば、(A) は青年の思考のすべての領域を覆うもので、あらゆる社会の中でも見られることが期待される。しかし、追試研究や比較文化研究では、必ずしもこの主張を裏づけるものではない。青年であっても (B) 領域以外では、ピアジェのいう発達段階にはないことが多い。シーグラール (Siegler, R.S.) は、思考の発達を問題解決の方略が (C) するとしている。また、コール (Cole, M) らが考えるように、思考の発達は (D) 要因に大きな影響を受けることが明らかにされている。

【語群】

ア 生物的	イ 具体的操作	ウ 減少	エ 特定	オ 形式的操作
カ 文化的	キ 一般	ク 増大		

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | エ | イ | キ |
| 2 | イ | オ | カ | キ |
| 3 | オ | エ | ク | カ |
| 4 | ク | イ | エ | ウ |
| 5 | ク | ウ | ア | オ |